

出張報告書

平成 28 年 8 月 4 日

市議会議長 様

会 派 名 自民クラブ

代表者氏名 岡林 憲二

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 「木のまち鹿沼」の取り組みについて
「子どもスポーツ大学ふじみについて」
- 2 出張先 栃木県鹿沼市 埼玉県富士見市
- 3 出張期間 平成 28 年 7 月 26 日～平成 28 年 7 月 27 日
- 4 出張者氏名 岡林憲二・井上源次・池内矢一・反甫 旭
鳥野隆生
- 5 てん末報告 別紙の通り

平成28年7月26日 栃木県鹿沼市

内容

「木のまち鹿沼」の取り組みについて

鹿沼市は、面積が490.62平方キロメートル 首都東京からおよそ100キロメートル・北関東の中央部に位置している 江戸時代の鹿沼は 日光西街道の整備にともない重要な宿場町として また大麻の取引で賑う市場町として隆盛を誇る また 日光東照宮造営に参加した宮大工の一部が鹿沼に定住し その技術を伝えたことが地場産業として発展している木工業の端緒と言われていて 日光線の開通や関東大震災、戦災復興などによる需要の増大により生産を伸ばし「**木工のまち**」としての地位を確立・昭和30年までに1市9か村が合併 平成18年1月1日に栗野町と合併し、新しい鹿沼市が誕生した

鹿沼市では 公共施設の木造 木質化に積極的に進めており 木材利用に関する施策（平成22年10月 施行）として **公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律**（平成23年12月 策定） とちぎ木材利用促進方針（栃木県） 「**鹿沼市公共施設木造・木質化基本方針**」 の策定 平成24年7月 県内市町に先がけて **公共施設の木造・木質化**を図っている

今回の視察調査「栗野小学校」について 現地視察と取り組みについて担当者より説明を受けました

学校施設の木造・木質化の推進、一番の驚きは、栗野財産区より建設用材として **約5000本の原木の無償譲渡**であることに感激した 地材地建では 地場で伐採 製材した木材を使用し 地場産業の力を結集 建設した栗野小学校は子供達にとって 地場産業を知る機会 自然の大切さを学び、愛着を感じる木造校舎となっている 建設費用は 校舎 体育館で約15億円 補助金を利用し建設 今後も 木材を利用した公共施設の建設に取り組んでいくとのことです

まとめ

地場産業を効果的に利用し 地域の人が 子どもたちに自然の大切さと 木で作られた立派な学校を大切にする気持ちが伝わってきました 本市においても山から海という自然を生かした取り組みを推進し 自然と調和した街づくりを考えていかなければならないと感じました 本市でも 特色を生かしたモノづくりを考え 地域と共同して 子どもたちに伝えていく取り組みが必要ではないかと思います

平成 28 年 7 月 27 日 埼玉県富士見市

内容

「子どもスポーツ大学ふじみ」の取り組みについて

埼玉県の南東部、首都 30 キロメートル圏に位置し、東は荒川をへだててさいたま市に、北は川越市・ふじみ野市に、西は三芳町に、南は志木市にそれぞれ接しています

平成 25 年 3 月に高速みなとみらい線が乗り入れ横浜まで 70 分 元町 中華街までは 80 分と交通の利便性が向上し 市の東側では田園地帯が広がる自然豊かな地域
市の西側は 住宅が多く東京のベッドタウンで人口は年々増加している

担当者より**子どもスポーツ大学ふじみ**とは、小学校 4～6 年生までの子どもたちがいろいろなスポーツ分野で活躍している選手といっしょに、学校ではなかなか経験できないスポーツを体験する**子どものためのスポーツ大学**で 対象は市内の在住・在学の小学 4～6 年生 参加費 1,000 円 資料・諸費用・保険代等を含み 募集人数は 30 人 抽選して各小学校より選ばれ 市と地域の大学、企業、NPO、県が連携して、子ども大学ふじみ実行委員会を組織し、子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会を提供し オリンピック女子レスリングの金メダリストやロンドンパラリンピックの柔道選手など多くのスポーツ選手がおられ また大学との連携もスポーツを通して 淑徳大学との包括協定や富士見市内に総合グラウンドある立教大学との連携を通じて プロまたは社会人のスポーツ選手を講師として招き 一流のプレーを間近で実感するとともに 選手の講義や指導を通じ「心技体」を学びながら健全な発達を促し、子どもたちの可能性を広げていく 子どもスポーツプログラムとしては六日間の各スポーツを学びレスリングや乗馬などあり バドミントンとラケットテニスを ミックスしたスポーツなど 富士見市発祥のニュースポーツも発案されている

子どもたちの変化については 考え方 興味の持ち方の幅が広がったり 交流の幅がひろがった 大学との連携により子どもたちが大学とは何か知る一歩となったなどがあげられ
課題としては 学校では体験できないスポーツで かつ一流選手の指導を受けることが可能な講義の開拓などが今後の取り組みになるとの説明を担当者より受けました

まとめ

本市においては大学とのスポーツを通じての連携はなく 今後 子どもたちがスポーツに対することを学んでもらえるように 本市においても 市内の一流スポーツ選手の発掘に取り組んでいく必要があると感じました
スポーツを通じ 大学や実業団など他市との協力体制をとり 子どもたちの学びに必要がある
本市でも 民間 地域の団体でも スポーツは盛んであるが 間近で一流のスポーツ選手の講義や実技を積極的に行う施策を取り組めるようにする